

株式会社チェンジ 2023年3月期第3四半期決算説明会(機関投資家向け)

No.	Question	Answer
1	<p>テイクレートの引き上げによりふるさとチョイスから離脱する自治体の割合はどの程度でしょうか。</p>	<p>約1,650自治体のうち、契約更新頂けなかった自治体は数件で、ほぼすべての自治体と契約更新できる見通しです。なお、契約更新頂けなかった自治体は採算性などを考慮されて、ふるさと納税制度自体からの離脱を判断されるようです。</p>
2	<p>第4四半期（2023年1-3月）にガバメイツの売上高が伸びていく計画のようですが、本第3四半期（2022年10-12月）までの赤字を第4四半期で解消できる見込みでしょうか。また、来年度のガバメイツの見通しも教えてください。</p>	<p>今年度、ガバメイツは愛媛県での受注案件を通して、標準化のビジネスモデルをしっかり作り込むことに注力しており、第4四半期内での赤字の完全解消までは難しい印象です。しかし来年度以降は愛媛県案件で確立したビジネスモデルを全国で横展開しつつ、行政等との連携による事業展開の加速などにより、大幅な損益の改善を見込んでいます。将来的にはふるさとチョイス並みの営業利益で100億円程度のビジネスにすることを目指しています。</p>
3	<p>今年度M&amp;Aでグループ入りしたロゴスウェア、DFA Roboticsの業容拡大や収益に対する貢献はどの程度ありましたか。また両者の来期以降の見通しを教えてください。</p>	<p>ロゴスウェアは、「みんなデ」をはじめとしてデジタル人材育成プラットフォームの構築に貢献しており、年間で営業利益に+3～5億円程度寄与すると見込んでいます。また、今後デジタルグロースアカデミアとのシナジーが出てくれば年間10億円以上の営業利益への貢献が見えてくると思います。</p> <p>DFA Roboticsは、一旦すかいらーく様への大量納入が2022年12月を以て完了したことから、次のターゲット獲得に向けた種まきの段階です。また飲食業界以外の業界への深耕を図っているため投資フェーズにあります。本第3四半期は収益に貢献しましたが、第4四半期から来年度前半まで投資がかかりますが、来年度中に通期で利益を出せる体質にしたいと考えています。</p>

株式会社チェンジ 2023年3月期第3四半期決算説明会(機関投資家向け)

No.	Question	Answer
4	チェンジグループにおけるトラベルジップの位置づけを教えてください。	<p>トラベルジップは自治体向け観光DXを担っていく位置づけです。自治体向けDXの強化と地場観光業を活性化するための観光業向けのSaaS、プラットフォームなどの開発を同社が中心となって進めていきます。</p>
5	<p>ふるさと納税制度にまつわる諸々の問題（自治体間の寄付額偏在、都市部からの税金流出、ポイント還元による競争過熱など）が話題になる中で、ふるさと納税制度は今後どのような方向に進んでいくと考えていますか。</p>	<p>現在ふるさと納税制度は、ポイント還元による過度な返礼品競争などにより本来の制度趣旨が歪められていると国会で取り上げられています。また、当社も総務省や国会議員と意見交換を行っていますが、その中でもポイント還元や過度なプロモーションにより寄付を煽っていること、その結果都市部からの流出が看過できない状況にまでなっていることなどが問題視されています。</p> <p>これに対して、都市部から流出した税を還流させる動きがでており、当社も横浜市などと一緒に検討を進めているところです。ふるさと納税制度を一定のルールの中でバランスのとれた形にしていくことが事業者としての責任だと認識しております。</p>